

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)751-7181

昭和63年 8月15日
第5号

大阪日蓮聖人門下懇話会

着々と体制整い 結成目前に迫る！

遂に矢は発せられた。昭和五十五年四月に門下懇話会が結成された大阪の地において、長らく諸般の事情で活動を休止していた同会が、今般機縁熟し、新しい構想のもとに再構築再出発することになった。今回の快挙は、日蓮聖人門下連合会が聖祖七百遠忌以後強力に進めてきた地方門連結成促進運動の成果、京都につづく連合体としてその行方が大きく注目されている。今年の身延理事会上に報告された同会の現状につき概略報告をさせていただくことにしたい。(編集部)



第1回世話人会(雲雷寺にて) 昭和62年11月16日

大阪日蓮聖人門下懇和 会結成に向けて通知

昨年十一月、日蓮宗大阪府事務所長伊丹栄彰師より門下各派宛次の文面が発せられた。

大阪日蓮聖人門下懇話会世話人通知。

「合掌秋冷の候、御尊山愈々御隆昌の段、大慶に存じおります。陳者去る昭和五十五年四月二十二日に門下懇話会が結成され、久しく会が開かれず今日に至りましたが、今般地方門下連合組織の拡充と要望が高まり、大阪における門下連合の組織も具体的に進める方向づけも必要かと存じます。そこで先に結成されました門下懇話会の世話人会を開き今後のあり方をご相談申し上げます。法務何かと御多用の御事と存じますが、何卒御出席賜ります様、御案内申し上げます。」

当日(十六日)会場雲雷寺に参集の世話人は日蓮本宗高橋勇夫、法華宗本門流古田日穂、法華宗真門流長謙泰信、本門法華宗信隆允忠、本門佛立宗川野日安、顕本法華宗吉永正晴、日蓮宗伊丹栄彰・奥野正寛・三田村宗鳳・藤田文明・有光友信の各師。本会より門下連合会富川孝恭幹事が出席した。

結成時の趣旨を確認し 再発足へ向け動き出す

会議は和気藹々の裡に進められ五十五年結成当時の趣旨を再確認し、再発足に向けて関係者世話人が集い、規約等を検討していく方向で合意に達した。

あくる六十三年二月十七日雲雷寺において第二回世話人会が開催された。前回出席者の他、新たに法華宗本門流富岡謙昭、国柱会麻田正廣、本会より並河顕周幹事が出席、規約案を叩台として逐次検討を行なったが全文決定に至らず次回世話人会に持ちこされることとなった。

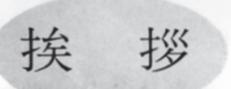
なお、大阪日蓮聖人門下懇話会結成後の運営について当分の間独自の活動を展開する方針も話し合われた。

五月十二日、第三回世話人会が雲雷寺において開催された。出席は前回出席者の他、法華宗本門流から菅原隆岳師が出席、前回にひきつづき規約案の審議を行なって決定稿とし、結成趣意書を成文印刷でき次第各派が自派寺院に配布し、入会を呼びかけることを取り決め、また第四回世話人会を九月二十七日とし、この日までに入会希望をとりまとめ発足総会へ進むことを申しあわせた。

ちなみに「大阪日蓮聖人門下懇話会結成趣意書」は次のように記されている。

大阪日蓮聖人門下
懇話会結成趣意書

発展の礎を築き 連帯の輪を



日蓮聖人門下連合会理事長
澁谷 直城



この度、長瀬貫公前理事長の後を受け理事長に御推挙いただきました澁谷直城で御座ります。門連だより第五号発刊にあたり、暑中御見舞い申し上げます。

日蓮聖人門下連合会の歩みも四半世紀を過ぎ、様々な活動や事業を展開しております。門下連合会の重要性を鑑みる時、積極的に活動に取り

組み、成果を挙げなければならぬと存じております。

具体的には、「門連だより」の充実、発行部数の拡大等、更に地方門連の組織化と、現在すでに順調に軌道にのりつつあります。門下連合会が将来に向かって発展する礎を一つでも二つでも確実に築いてゆきたいと願っております。門下連合会各派の

国柱会 麻田正廣
川岸弘二
顯本法華宗 吉永正晴
日蓮宗 伊丹栄彰
奥野正寛
三田村宗鳳
神谷行宏
藤田文明

なお、懇話会規約(案)はその目的を「本会は日蓮聖人の遺徳を奉じ、異体同心を旨とし、四海帰妙の実現に努力すると共に会員の親睦を図ることを目的とする」とし、その目的達成のため

- 日蓮聖人報恩行事
- 布教興学に関する事業
- 毎年一回会員親睦総会
- その他目的達成のための行事および事業

役員構成は、理事、理事長、副理事長制で十三名二年交代制(日蓮宗と法華宗との)となっている。

大阪日蓮聖人門下懇話会発足に向けて力強く始動をはじめたが、去る六月十日身延山久遠寺において開催された理事会上で、顯本法華宗宗務総長吉永正晴師より以上の報告がなされ一層の支援協力体制が確認された。

二十一世紀を目前にして立正安国の旗印の下に日蓮聖人門下は今こそ大同団結の姿を示さねばならない。大阪での門下連合気運の昂揚が全国各地に伝播拡張し、門下連合の実益々高まらんことを祈りたい。

從地涌出

……我れ身命をおしらず但無上道を惜む……一心に仏を見たてまつらんと欲して自ら身命を惜まず……成仏のために身命を惜まない、法華経信仰の安心は、これよりほかにはない。

人間が命を惜むことは、ほとんど本能である。不信の人々はいたずらに死を恐れ、愚痴そのままに臨終にあたり醜い形相を示すことが多い。(命を惜む)ことからいろいろな失態が生じる。邪見になれば馬鹿にもなる。横着・臆病・詐欺などの罪悪はこの愚痴から出てくる。生活・金銭・我欲・名利などのためには人々は必死になる。これを打ち破らねばならぬ。

たしかに命は人間の財産中第一に貴重な宝だ。その宝を正法のために惜まずに捧げ使用する(不惜身命護持正法)することによって成仏できるのである。正法を護持するには、末法の大導師日蓮聖人のみ教のままに(如説修行)することであり、祖願成就をめざして精進していくことである。

……異体同心にして、南無妙法蓮華経と唱うるところを、生死一大事の血脈というなり。しかも今日連が弘通するところの所詮これなり。もし然れば広宣流布の大願も協うべきものなり……

正法護持の要は、必ず異体同心の祖訓を体現しなければならぬ。そして、同心とは、宗徒相互の同心ではなく、日蓮聖人に同心することであることを銘肝しなければならぬ。(A)

シリーズ 円下御本山巡り 4

日蓮宗本山本法寺

弘法歳月の久々・法訴度数の多々、その功勳一閻浮提無双日親上人開基「永代不朽の寶所」本法寺を訪ねる



日蓮宗本山本法寺

京都市上京区小川通寺ノ内上ル 〒602 ☎075(441)7997
◎京都駅より市バス「西賀茂車庫」行堀川寺ノ内下車
◎四條大宮より市バス「上賀茂神社」行堀川寺ノ内下車
◎三条京阪より市バス「衣笠」行堀川寺ノ内下車

求道者日親上人

日像上人の帝都弘通によって日蓮教団の教線は大きく変化したといえる。即ち近畿を中心として畿内から瀬戸内海一帯の地方に急速に発展していったのである。そして京都に於ける妙顕寺の勅願を得たことなどを含めて、貴族、公家の入信外護は権力者の力をかりての宣布に大きな力となったのである。

このような時代に日蓮聖人の入滅より一二年を経た、応永十四年(一四〇七)日親は下総国匝谷に生まれ、関東武士の血気な性質をそのままに生長したであろう寅菊丸は兄日国と共に妙宣寺日英の門に入ったのであるが、初発心の師日英は程なく没し中山法華経寺五世の日蓮に師事し、日親と改名するも二年後には日蓮も没し、日薩に師事したが同年その日蓮も遷化したのである。このように相ついで師匠を失った日親はその後誰によって学んだのであろうか。

当時正中山に一切経はなかったのであろうという学者の説はともかく

艱難にみちた宗教実践

日親は日蓮聖人の一生を追体験し、日祐より学んだ行動性をもって、自らの宗教実践としたのであるが、それは彼の二十一歳の春二月八日であった。『爰に日親法師の修業は、生年二十一歳、応永三十四年丁未の春二月上旬、講肆之門を開きしより以降、星霜八十一年、文明十九年丁未之秋に至るまで六十一廻の鳥兎を送る。柳営より華洛に及び、東西に馳走し南北に往返して寺院を建立すること三十有余、公武を諫争すること合せて八箇度、両寺之堂宇を破られては数々見擯出の鏡を磨き、嗷門禁獄之呵責を蒙つては、我不愛身命の金言を扶く、女風の遠く扇では且く執権賢に泊はずといえども後哲に希なるべきか。中に於いて弘法歳月の久々と法訴度数の多々と両箇の功勳に於いては、一閻浮提無双の行者なり。』(漢文本法寺縁起)

日親は自らの六十年におよぶ波瀾と艱難にみちた活動の過去をこのように記している。

娑婆即寂光と即身成仏

念仏信仰の彼岸浄土の世界を否定し、現世を常寂光土たらしめるため現世を肯定し、娑婆即寂光と即身成仏を説いた日親の教説は、その行動の中に実証され、獄より放たれて京の町衆の中に姿をあらわした日親は正しく生き仏そのものであった。そして上人の主張された治国民の願いは洛中の大半を題目の埒場と化したのである。

日親の法華経至上主義は日蓮聖人以来の正統的なものとして、謗法行為を一点たりとも許さない、純粹にして完全なる不受不施の論を主張し、いわば近世の日興、日樹上人の不受不施の前提となるもので、王侯除外制をとらず完全な不受不施であったのであるが、その為は一切の妥協を排し、自らの権威を確立し、他宗への批判と謗法者に対する闘争は激烈なものであった。彼の『折伏正義抄』の中にも厳しくこれを戒めている。



本法寺の山門

現在本法寺に伝わる門流法度・本法寺法式等は、この意にたもたものであると思われるのであるが、その為には上人は「狗犬の僧」とまで宗門の内部からも罵られ、同門流の正中山よりは破門されるに至ったのである。

法華経文化の先駆者

日親の在世は正しく下剋上の時代であった。人間不信の時代に法華経の絶対救済を説き、壮烈な迫害に堪え抜いた上人に対する信頼は絶大なもので、相次ぐ戦乱の中から立ちあがらんとする京の町衆を初めとする民衆達に熱狂的に迎えられたのである。その代表的人物は本阿弥清信であり、一門の人々であった。

文明十九年(一四八七)日親は本法寺建立の為の勸進を行ったのが前述の本法寺縁起であるが、その翌年その完成を見ずして八十二年の生涯を三条萬里小路の弘通所で閉じたのである。上人の言葉をかりれば正しく永代不朽の寶所としての本法寺の建立は日ならずして洛中に完成したのであった。

日親の言う所の本法寺は後年に至り、本阿弥光悦、長谷川等伯ら芸術家の拠り所となり、町衆文化との抜き難い結合を生んだのであるが、それは室町期のみに限定されたものでなく、近世に継承されたものであって所謂法華経文化と称せられるものであり、光悦の法華信仰によるもの大いなるものがある。そしてそのことは日親の果した日本歴史への役割として大きく評価されるものである。

現在本法寺に格納されている重要文化財二十数点を初め古文書を含めての約三千点に及ぶ宝物は、永い歴史を秘めて、静かに眠りつつ次代への歴史を刻んでいるのである。

JTB advertisement featuring a cartoon illustration of a busy travel agency counter. Text includes: '軽快な店舗' (Light and fast branches), 'JTBのお店はフットワークが軽快です。' (JTB branches have light feet), 'JTBのお店は電話が軽快です。' (JTB branches have fast phone service), and 'JTBのお店はインフォメーションが軽快です。' (JTB branches have fast information service). It lists various services like travel packages, insurance, and airport transfers.

暑中御見舞

昭和六十三年盛夏



日蓮宗宗務院

| | | | |
|--------|-------|----------|-------|
| 管 長 | 岩間 日勇 | 教務部長 | 佐藤 秀旭 |
| 宗務総長 | 澁谷 直城 | 護法伝道部長 | 田中 学貞 |
| 宗務副総長 | 森 惠遠 | 現代宗教研究所長 | 石川 教張 |
| 総合企画部長 | 金坂 信章 | 参 与 | 白部 健順 |
| 庶務部長 | 橋田 文啓 | 参 与 | 岡田 法順 |
| 財務部長 | 伊藤 速雄 | 日蓮宗新聞社社長 | 頂岳 龍乘 |

〒146 東京都大田区池上一―三二―一五
電話 〇三(七五)七二八(一)代

法華宗(本門流)宗務院

| | |
|------|-------|
| 管 長 | 小西 日靜 |
| 宗務総長 | 松井 孝純 |
| 教学部長 | 古田 日穩 |
| 庶務部長 | 渡辺 修翁 |
| 教北部長 | 大橋 周光 |
| 財務部長 | 中村 宏龍 |

〒170 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話 〇三(九一)〇四七五(代)
FAX 〇三(九一)七九九四

顕本法華宗宗務院

| | |
|------|-------|
| 管 長 | 古瀬 日宇 |
| 宗務総長 | 吉永 正晴 |
| 宗務次長 | 山田 信正 |
| 財務部長 | 飯澤 道宣 |
| 布教部長 | 山本 学人 |
| 教務部長 | 平田 浄応 |
| 社会部長 | 田島 敏義 |
| 庶務部長 | 島田 幸晴 |

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九)七一一

法華宗(陣門流)宗務院

| | |
|------|-------|
| 管 長 | 野口 日騰 |
| 宗務総長 | 牧野 琢成 |
| 総務部長 | 土屋 善敬 |
| 教学部長 | 都築 哲信 |
| 教化部長 | 金原 戒雄 |
| 財務部長 | 江坂 隆俊 |

〒170 東京都豊島区巢鴨五―三五―六
電話 〇三(九一)八七二(九)〇
FAX 〇三(五七)六〇二二

本門佛立宗宗務本庁

| | |
|-------|--------|
| 講 有 | 梶本 日裔 |
| 講 尊 | 小山 日幹 |
| 宗務総長 | 長谷川 日序 |
| 宗務副総長 | 高須 日薫 |
| 宗務副総長 | 大谷 日薫 |

宗務本庁役員一同

〒602 京都市上京区御前通一条上ル東登町三〇番地
電話 〇七五(四六)一一一六(代)
FAX 〇七五(四六)四五九九

日蓮本宗宗務院

| | |
|------|-------|
| 管 長 | 嘉儀 日有 |
| 宗務総長 | 住友 顕一 |
| 財務部長 | 丹治 義順 |
| 総務部長 | 今村 要道 |
| 法務部長 | 今村 要道 |
| 教学部長 | 今村 要道 |

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七)三三三九〇

法華宗(真門流)宗務庁

| | | | |
|-------|-------|------|-------|
| 管 長 | 林 日圓 | 財務部長 | 小西 法明 |
| 宗務総長 | 吉田 研宏 | 参 与 | 吉田 勝秀 |
| 宗務副総長 | 長鎌 泰信 | 参 与 | 上田 浩岳 |
| 総務部長 | 上嶋 智岳 | 教学主事 | 小島 玄城 |
| 教学部長 | 左神 信学 | 教化主事 | 岩崎 峻暉 |
| 教化部長 | 左神 信学 | 教化主事 | 岩崎 峻暉 |
| 社会部長 | 蓑輪 溪玉 | 財務主事 | 笹木 研秀 |

〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四)一五七六二

本門法華宗宗務院

| | |
|------|-------|
| 管 長 | 佐野 日紀 |
| 宗務総長 | 吉村 信尚 |
| 宗務部長 | 高辺 誠亮 |
| 財務部長 | 山下 通雄 |
| 総務部長 | 信隆 允忠 |
| 教務部長 | 飯田 信栄 |
| 庶務部長 | 藤井 宏長 |

門連兼任理事 木村 光紹

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺
電話 〇七五(四五)一三二五二七

国柱会

宗教法人

| | |
|---------|--------|
| 会 長 | 田中 香浦 |
| 理 事 長 | 加倉井 清信 |
| 副 理 事 長 | 中平 千三郎 |

国柱会本部・妙宗大靈廟

| | | | |
|-----|--------|--------|-------|
| 講 師 | 大橋 富士子 | 必武館副館長 | 家田 仙次 |
| 講 師 | 大屋 敬吉 | 会計部長 | 大屋 統子 |
| 講 師 | 大橋 邦正 | 組織部長 | 木村 司 |
| 講 師 | 長井 君夫 | 総務部長 | 長瀧 光雄 |
| 講 師 | 関口 宏 | 庶務部長 | 江口 和敏 |
| 講 師 | 秋場 善彌 | 事務局次長 | 新山 信男 |

〒132 東京都江戸川区一之江六一―九一―八
電話 〇三(六五)六七一(一)代

日本山妙法寺

首 座 上野 行量

〒542 大阪市南区南船場一―三一―一
電話 〇六(二六)三二二六

京都日蓮聖人門下連合会

| | |
|---------|-------|
| 会 長 | 林 日圓 |
| 副 会 長 | 沖 日亨 |
| 理 事 長 | 上田 浩岳 |
| 副 理 事 長 | 藤田 尚慈 |

〒602 京都市上京区智恵光院通五辻上ル
是 好 院
電話 〇七五(四五)一八九九〇

「門連だより」に期待する！

異体同心実現

門連撃鼓宣令を全世界に



常任理事 石山 善邦
(日本山妙法寺)

門連発足当時より、山主・藤井日達上人、首座・丸山行遼上人は海外巡錫のため、留守居の私が御言葉により代理出席し、いつのまにか皆様の末席をけがしてあります。

御存知の様に、私どもは小教団ですが一門挙げて海外に出ており、私も年に何度か出かけ、せっかくなか企画された会合にも欠席多く、申訳なく思っております。ここに御詫言申上げる次第でございます。

恩師日達上人は百一歳の御年まで世界各地を廻られましたが、父母の孝養心に足らずと、御母上御遷化の地熱海に帰られては、御給仕される事が唯一の静養ともなり、ついに御自分も熱海にて遷化されました。日本の仏法南無妙法蓮華經を西天印度に還来帰家せしめる大誓願が果されるや、その功徳は世界をゆり動かして、一閻浮提に広宣流布し、東湧西没の時代となると宣言され、御弟子も海外に送り出されました。異国の地で乏しい財布の紐を締めパン屑や野菜屑をいただきながら、

地方門連会の結成を念願す



常任理事 泉沢 清仁
(本門佛立宗)

日蓮聖人門下連合会も二十周年の歳月を経過して、長い時の流れの中には先聖方の思い出のお顔が浮び出て参ります。小生門連の常任理事を宗内の事情から内局の更迭に問わず御奉公し

て参りました。それも健康をお与え下さった仏恩に御礼を申上げる次第です。長い間、門連各先輩諸師の御教導を頂き、門連高祖七百回御遠諱に際しては合同して記念事業を行い色々と後世に残る思いもありまし

と。祖廟参詣を中心に門下の協同、親和を念願して連合体を作って毎年身延、京都と会合を重ねて勉強をさせて頂きました。多くの他山の石の譬え、見学を重ねて、厚く御礼を申し上げる次第です。

時には門連不用との意見もあつたと感じたのでありますが、この門連だよりの刊行、近日は各方面の地方門連の小廻りの結成もできつつある状態に昭和六十三年度の祝福すべき姿と有難く感ずる次第です。身延に結集して協議し、合同し協

署中お見舞い申し上げます。門連だよりが継続発刊されることはまことに喜ばしいことと思っております。編集委員の皆様方のご苦勞はお察しいたします。各宗派教団は、各自の機関紙をもっておりまして、門下全般にわたるものは、本紙だけで済ませ、それだけ期待もかかる責任も大きいといえましょう。同じ法華經の信者、お題目を唱えるもの同志、日蓮門下といっても全国的規模となるとニーズを把握するのは至難なことでしょう。

ところで第四号に地区連合会の結成を促す記事がありました。私共の先輩諸師は三十五、六年前にいち早く京都に門下連合会を発足させました。現在でも二月十六日の降誕会、四月下旬の立教開宗会、八月下旬の夏期大学、十月初旬の連合御会式は四大行事として継続開催されていま

力してなすべき点、学ぶべき点、改革すべき事を得る事ができれば幸甚です。そのためには小廻り会合、地方門連会合の結成を念願します。門下連合の出版物、学生の留学、交換迄できれば各門下の内助の功にも成り得ると思われ次第です。最近、門連は風もなく、なきたる潮に船出して居る様な状態で、有難い次第ですが居る治不忘乱、易易辭に君子安而不忘危と申します様に合議、連携して前進したいものです。当宗も開導百諱を昭和六十四年に相当し報恩謝徳のご奉公に精進させて頂いて居ります。先日、愛生園六清会の招きを受け、挨拶の中に御指南を拝して自分も努力して居ります。強く生きる事を念じています。清風は今六十三歳なれども神通力故増益壽命して常住不滅の金剛身を得たり、六根清浄也。これも而祖のおかけにて専修行因下種の本法を信心口唱し、御門流繁榮を祈り奉れる故に候御褒美に候也あらうれしやあらうれしや。明治十三年十月三十日 御花押

地域門連のアドバイザーたれ



常任理事 上田 浩岳
(京都門連)

暑中お見舞い申し上げます。門連だよりが継続発刊されることはまことに喜ばしいことと思っております。編集委員の皆様方のご苦勞はお察しいたします。各宗派教団は、各自の機関紙をもっておりまして、門下全般にわたるものは、本紙だけで済ませ、それだけ期待もかかる責任も大きいといえましょう。同じ法華經の信者、お題目を唱えるもの同志、日蓮門下といっても全国的規模となるとニーズを把握するのは至難なことでしょう。

暑中お見舞い申し上げます。門連だよりが継続発刊されることはまことに喜ばしいことと思っております。編集委員の皆様方のご苦勞はお察しいたします。各宗派教団は、各自の機関紙をもっておりまして、門下全般にわたるものは、本紙だけで済ませ、それだけ期待もかかる責任も大きいといえましょう。同じ法華經の信者、お題目を唱えるもの同志、日蓮門下といっても全国的規模となるとニーズを把握するのは至難なことでしょう。

暑中お見舞い申し上げます。門連だよりが継続発刊されることはまことに喜ばしいことと思っております。編集委員の皆様方のご苦勞はお察しいたします。各宗派教団は、各自の機関紙をもっておりまして、門下全般にわたるものは、本紙だけで済ませ、それだけ期待もかかる責任も大きいといえましょう。同じ法華經の信者、お題目を唱えるもの同志、日蓮門下といっても全国的規模となるとニーズを把握するのは至難なことでしょう。

暑中お見舞い申し上げます。門連だよりが継続発刊されることはまことに喜ばしいことと思っております。編集委員の皆様方のご苦勞はお察しいたします。各宗派教団は、各自の機関紙をもっておりまして、門下全般にわたるものは、本紙だけで済ませ、それだけ期待もかかる責任も大きいといえましょう。同じ法華經の信者、お題目を唱えるもの同志、日蓮門下といっても全国的規模となるとニーズを把握するのは至難なことでしょう。

暑中お見舞い申し上げます。門連だよりが継続発刊されることはまことに喜ばしいことと思っております。編集委員の皆様方のご苦勞はお察しいたします。各宗派教団は、各自の機関紙をもっておりまして、門下全般にわたるものは、本紙だけで済ませ、それだけ期待もかかる責任も大きいといえましょう。同じ法華經の信者、お題目を唱えるもの同志、日蓮門下といっても全国的規模となるとニーズを把握するのは至難なことでしょう。



常任理事 大橋 邦正
(国柱会)

祖廟輪番奉仕の実現に向つて

さる昭和四十年に日蓮宗ならびに身延山は、御門下各教団のかねてからの願望をいれて、身延山祖廟輪番に関する宗制を改め、ひろく連合会所属教団の、自由な奉仕に門をひらいた。それは御門下各派が各派の法義によって奉仕するという、歴史的な祖廟輪番奉仕の制が布かれたことにはかならない。

私も国柱会はその年の四月、田中会長以下全国会員の代表による身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団を組織し、門下連合会の先陣を承わり全御門下を代表しての意義のもとに、三晩四日連続して祖廟まじかに常唱題のお給仕を奉仕した。爾來毎年恒例として昨秋第二十三回を奉仕するに至った。

日蓮聖人門下連合会規約の第三条に目的として掲げられる、「祖廟を中心として」の文字は、門連活動の中心として、

私ども国柱会はその年の四月、田中会長以下全国会員の代表による身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団を組織し、門下連合会の先陣を承わり全御門下を代表しての意義のもとに、三晩四日連続して祖廟まじかに常唱題のお給仕を奉仕した。爾來毎年恒例として昨秋第二十三回を奉仕するに至った。

急がれる協力体制の充実



常任理事 金坂 信章
(日蓮宗)

暑中お見舞い申し上げます。門連だよりが継続発刊されることはまことに喜ばしいことと思っております。編集委員の皆様方のご苦勞はお察しいたします。各宗派教団は、各自の機関紙をもっておりまして、門下全般にわたるものは、本紙だけで済ませ、それだけ期待もかかる責任も大きいといえましょう。同じ法華經の信者、お題目を唱えるもの同志、日蓮門下といっても全国的規模となるとニーズを把握するのは至難なことでしょう。

また、本年は地方門連の組織化を積極的に推進していきたいと存じます。そのためには門下各派の御理解御協力を得た上で、「門連だより」を有効な推進手段のひとつにしたいと考えております。地方には組織化の素地は十分にあり、あとは協力体制の充実化だと存じます。

門下の信頼は、各派の政策的伝統を尊重して、小異を捨てずに大同につく努力と勇気に尽きるものと考察いたします。財政事情も違い、門下連合の消長も、この点に係わっているもので、とかく閉鎖的になりがちな弱小グループに配慮をお願いいたします。

小異を捨てずに



常任理事 木村 光紹
(法華宗本門流)

暑中お見舞い申し上げます。門連だよりが継続発刊されることはまことに喜ばしいことと思っております。編集委員の皆様方のご苦勞はお察しいたします。各宗派教団は、各自の機関紙をもっておりまして、門下全般にわたるものは、本紙だけで済ませ、それだけ期待もかかる責任も大きいといえましょう。同じ法華經の信者、お題目を唱えるもの同志、日蓮門下といっても全国的規模となるとニーズを把握するのは至難なことでしょう。

最近、三派(顕本・陣門・真門)連絡協議会より、オブザーバーとしての参加を呼びかけていただきました。その朗報が宗会にも報告され、前向きに好意に答える準備をはじめました。公開に値する資料も不足し、後発教団として経験の浅い本宗とし

の歴史と伝統を尊重し信仰と教学を同じくする限り、法水一如、人法互通の宗門運営がなされていきました。昭和十六年三月、法華宗・本妙法華宗・本門法華宗の三宗合同により法華宗(陣門流)(真門流)(本門流)となり、異体同心に宗運の興隆を図る。戦後、その法華宗から昭和二十一年に、本門仏立講が分派独立、教団の中の教団という宿命として当然の推移でした。昭和二十五年、宗教法人法改正公布に伴い、一宗の政治権力の干渉を嫌う有志が法華宗(本門流)より、旧名本門法華宗に復元、それぞれの根本道場たる本山中心の信仰、法水一如、人法互通の民主的運営を標榜し、当時、不安定であった宗族の保護等をいち早く保証して、妙蓮寺に結集いたしました。公器としての運営面に経験が浅く実績も乏しいために、新しい秩序を求め、試行錯誤の時期もございました。農地解放、都市寺院の戦災復興等、寺族が路頭に迷い薄水を踏む現実を、非情な権力から守るための苦心でした。

(五面につづく)

(四二面より)
て子弟の育成など寒心に耐えない不安を抱え、弘宣流布のための宗教情報等、共同歩調が適えらるるなら、独立以来、捨て切れなかつたある種の弱さ、迷いを転じて、門下の教線拡張にも役立つことができることと確信いたします。



教化宣伝の羅針盤に

常任理事 牧野 琢成 (法華宗陣門流)

「門連だより」の編集には「青年の船」当時の実行委員諸士が、各派の代表として参加され、友情の絆を深めつつ立正安国の御理想実現に精魂を込め英知を高めておられます。明日の仏国土の希望を担う諸兄が、更に一步の日常の精進を心より期待いたしております。

門下連合会が結成発足してよりかなりの年月がたつのに、合同の機関紙がなく不思議に思つて居りました。が、ここ数年、年二回程ですが「門連だより」が発行され、各宗選出の編集委員により、充実した内容の論説、報道、動向等が提供されて、いろいろ参考にさせて頂いて居りましたが、今回第五号発刊に向けて努力されると聞き喜ばしい事と思つて居ります。

も様々になり、一宗派のみの行動では、対処がむづかしくなつて参りました。ここに門下連合会結成の意義もあるかと存じますが、年数回の会合ではありますが、傘下各宗がそれぞれの行動、実績、悩み等を論議し、長所を取り短所を補つて、各種の問題に対しても、より高度な一歩前進した対応行動がとれるのではないかと存じます。「門連だより」によつて、各宗派の大は大きな、小は小なりの特色ある行動、実績を各寺院各僧侶にまで報知して頂けたら、布教宣伝の一つの指針ともなり、その前進活発化に大いに益するものであると思ひます。



きめ細かな配慮を切望す

常任理事 松井 孝純 (法華宗本門流)

日蓮宗の宗内事情により停滞していた「門連だより」刊行問題が早期に解決したことに敬意を表す。

先師の敷いた門連路線を、老化した右膝を気にしながら歩いている現状である。

しかし先日のこと、宗内のある会合で「法華宗(本門流)」は日蓮宗の一派であると書かれた本を提示して、このようなことを書く著者に強く抗議をしてくれと云われた。また身延の祖廟護持ということが門連規約にうたわれているが、法華宗(本門流)がいつ頃から日蓮宗の傘下にはいつってしまったのか、その理由を強く問われた。

これらの抗議や詰問に類する多くのわが宗内の声を一身に浴びながら



結束の輪を拓げるために

常任理事 柳下 義真 (日蓮本宗)

のため門連が必要であり事業の拡大が叫ばれるという者もある。門連事業の盛大への努力、拡張への精進に御苦勞なさつて居る方々に心から敬謝する一人であるが、門連加盟宗団の理事である私のようなも

のが困惑しないような配慮を望んでやまない。またこのような拙文をも躊躇せず門連だよりに掲載する勇氣に期待するものである。

暑中お見舞申し上げます。願ひますと昭和五十六年聖祖第七百御遠忌における種々の報恩記念事業が大きな成果を得られることができたのは、門下連合会加盟各派の総力が結集したゆえんでもあります。しかしながら記念事業における各教団への経費負担の過重が、遠忌以後しばらくは門連活動も小休止したいという思いが宗門の中にあつたことは否めません。その後、門連結成二十五周年を記念して機関紙「日蓮聖人門連だより」の刊行が決定されましたことは、そういう流れを私試するということからみて意義深く、今後の門連の活動に大きな期待が寄せられました。



門連だよりの発展を祈る

常任理事 吉田 研宏 (法華宗真門流)

その後順調に四号まで発行されましたが、諸般の事情により休刊のやむなきに至りました。その間編集委員は常に連絡を密にとり合い結束を固めて参りました。

近頃、読んで楽しいな、と思うもの一つに「門連だより」がある。高祖大聖人七百御遠忌を中心に行つた種々の事業、行事等を終えた後、これと云ふ事業目的もなく過ぎて来た門連であるが、「門連だより」なる文書交流の場に接した事は、ほのぼのとした喜びを感じている。

この後順調に四号まで発行されましたが、諸般の事情により休刊のやむなきに至りました。その間編集委員は常に連絡を密にとり合い結束を固めて参りました。

然し、お互を知つたり、知られたりする事は大変よい事である。相手



親睦和融し広宣流布に全力を傾注せよ

常任理事 吉永 正晴 (顕本法華宗)

日蓮大聖人七百御遠忌以後これといった行事もなく、その中で身延理事会、祖廟参拝、京都理事会、懇親会と、事業として唯一の本紙の発行がある。暫く途切れて心配された本紙がこうして立派に発行されたことは誠に喜ばしく、関係者編集委員の御尽力に感謝すると共に、永続と発展充実を心から祈ります。

年に先般遷化された金子現下を理事長として祖廟に参拝、本会結成を奉告して以来、近年の恒例行事となつたが、本年の参加理事十三名、異体同心の祖願に申し訳ない思いであり、もちろん往古より一致だ勝劣だと反撥反感をつのらせ、根の残つているに無きにも非ずと言えますが、私達門下の中心は大聖人の外にはありません。宗派教団にはそれぞれ強固な固有の教義心構があ

運びとなりましたが、今後発行を重ねていく中で、さらにこの結束の輪が機関紙を通じて拓げられることを期待いたします。私自身、門連の常任理事に就任致しましたのは、つい最近のことであり、引き続き「門連だより」の編集委員という職に担当致しておりますが、これは吾が宗門の事情によるものであり、若輩、浅学、非才な身でいかほどのお役に立ちますかと危惧致しておりますが、諸先輩各聖のご指導、ご鞭撻を仰ぎ、微力ながら尽力する次第です。

Advertisement for the Lotus Sutra (妙法蓮華經) featuring images of the sutra books and promotional text. It includes details about the editions (乾坤二卷本 and 八卷本), prices, and contact information for Nichiren Shonin News Agency.



舞見御中署

昭和63年盛夏

(順不同)

| | | | |
|--|---|--|--|
| <p>法華宗(陣門流)総本山 本成寺</p> <p>〒955 新潟県三条市西本成寺一―一―一〇 電話 〇二五六(三三)〇〇〇八</p> <p>黄 首 野口日騰 執 事 長 真保行宣 執 事 笹原壯一 執 事 西山英仁 執 事 平井良光 執 事 佐古弘文</p> | <p>顕本法華宗総本山 妙満寺</p> <p>〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一 電話 〇七五(七九)七一一七 FAX 〇七五(七九)七二二六</p> <p>黄 首 古瀬日宇 総 務 山田信正 執 事 平田浄應 執 事 土持栄孝 執 事 三坂岳應 執 事 津村乗信</p> | <p>日蓮宗大本山 池上本門寺</p> <p>〒146 東京都大田区池上一―一―一 電話 〇三(七五)二二三三</p> <p>黄 首 田中日淳</p> | <p>日蓮宗総本山 身延山久遠寺</p> <p>〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延 電話 〇五五六(二)一〇一一</p> <p>法 主 岩間日勇 総 務 望月一靖 役職員一同</p> |
| <p>本門佛立宗本山 宥清寺</p> <p>〒602 京都市上京区二条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇五―一 電話 〇七五(四六)三三四六二〇(代) FAX 〇七五(四六)三三四六五一一</p> <p>住 持 十九世講有 梶本日裔 事務局長 小倉徳治郎 信使総代</p> | <p>日蓮宗 本山要法寺</p> <p>〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上丸法皇寺町四四八 電話 〇七五(七七)三三三九〇</p> <p>黄 首 嘉儀日有 執 事 長 住友顕一 執 事 丹治義順 執 事 今村要道</p> | <p>本門法華宗 大本山妙蓮寺</p> <p>〒602 京都市上京区寺之内通大宮東入妙蓮寺前町八七 電話 〇七五(四五)一三三二七</p> <p>黄 首 中村日宣 執 事 長 松下日肆 役職員一同</p> | <p>法華宗(真門流)総本山 本隆寺</p> <p>〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇 電話 〇七五(四四)一五七六二</p> <p>黄 主 林日圓 執 事 長 上田浩岳 執 事 小島玄城 執 事 岩崎峻暉 執 事 補 笹木研秀</p> |
| <p>日蓮宗大本山 北山本門寺</p> <p>〒418-01 静岡県富士宮市北山重須 電話 〇五四四(五八)一〇〇四</p> <p>黄 首 片山日幹 執 事 長 田中慈潮 執 事 本間正晃</p> | <p>日蓮大聖人御靈跡 日蓮宗大本山 本圀寺</p> <p>勅諭にて京都に移遷の松葉ヶ谷草庵の靈跡</p> <p>〒607 京都府京都市山科区御陵大岩町六 電話 〇七五(五九)三九一九一</p> <p>黄 首 水谷日諦 執 事 長 玉田学雄</p> | <p>日蓮宗大本山 妙顕寺</p> <p>〒602 京都府京都市上京区寺ノ内堀川東入 電話 〇七五(四一)四〇八〇八</p> <p>黄 首 沖日亨 執 事 長 山田一光 執 事 原光司</p> | <p>立教開宗之靈地 日蓮宗大本山 清澄寺</p> <p>〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄 電話 〇四七〇九四〇五二五</p> <p>別 当 塩田義朗</p> |
| <p>日蓮宗本山 頂妙寺</p> <p>〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大藪町九六 電話 〇七五(七七)二〇五六二</p> <p>黄 首 金子光瑩 参 与 土屋学周 同 新井智清 同 山田完修 執 事 補 藤井照源 同 川合陽雄 同 二部知孝 東京執事 田村宏祐</p> | <p>日蓮宗本山 立本寺</p> <p>公元一九八五年十月十三日 開山日像菩薩御遠忌奉修</p> <p>〒602 京都府京都市上京区北野一番町一〇七 電話 〇七五(四六)六五一一六</p> <p>黄 主 細井日苑</p> | <p>久遠成院日親上人御靈窟 日蓮宗本山 本法寺</p> <p>重文涅槃図長谷川等伯筆 名勝巴の庭本阿弥光悦作</p> <p>〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル 電話 〇七五(四四)一七九九七</p> <p>黄 首 金山寛成</p> | <p>日蓮宗大本山 法華経寺</p> <p>〒272 千葉県市川市中山二―一―一 電話 〇四七(三三)四三三三</p> <p>黄 首 長瀬日還 参 与 関智明 同 小倉観清 同 新井俊明 同 植田智泰 同 廣野観泰 執 事 長 渡辺行俊 執 事 同 渡辺行俊</p> |

シリーズ
門連の進路をさぐる
4

統一閣と統合問題をめぐって

日蓮聖人門下連合会相談役
日蓮宗妙経寺住職

山口智光



四箇格言問題を契機に門下統合の声

「開頭統一」の旗じるしを高く掲げて統一閣が誕生したのは、明治四十五年四月の事で、小学生だった自分も盛大な落成式を見ることが出来ました。

東京の繁華街、浅草と上野の間で電車通りを面しているの地の利も良く、毎日曜には日蓮主義講演が開かれ、殊に本多日生上人の出演の時は超満員という有様でした。二階には広い講義室もあり、外観といい、帝都弘通の中心道場として偉彩を放つ建築でした。

四箇格言の問題を契機として、全国的に日蓮主義勃興の機運を盛り上げられた本多日生上人の大獅子吼は先に統一閣の結成となり、天晴会の活動を見るに至った。

その会員となった宗門人や有識者の中から沸き起った門下統合の声は、具体化が進んで、大正三年十一月八日の池上大会の宣言となり、翌年三月には規約の制定となった。参加の教団は、日蓮宗、日蓮正宗、本門宗、本門法華宗、本妙法華宗、頭本法華宗の六教団であり、六月二十日には日本橋倶楽部で盛大な統合成立発表会が行なわれた。

立正安国の実現に向けて大師号降臨

第一次世界大戦が終わると、国際状況は一変し、思想界は混乱した。法国冥合、立正安国の御理想を実現すべき秋なりと、本多日生上人は、「日蓮聖人大師号降臨」を企画され、門下各派の管長と東郷伯爵以下軍部政界の巨頭十八名の連署を以て、請願書を宮内大臣に呈出され、十月十日には早くも諡号宣下の通牒があり、同十三日には麻布水交社で宣下奉戴式が行なわれた。更に十一月六日には奉祝大会が、上野自治会館で盛大に行なわれた。

は統一閣であった。その統一閣が姿を変えて、日蓮宗務院となった。昭和四十年の事である。

京都・身延理事会報告

地方門連・機関紙の充実に向け熱心に討議行わる

京都理事会開かる

昭和六十二年度日蓮聖人門下連合会京都理事会は、十一月二十五日午後一時より日蓮宗本山本法寺を会場に行われた。

当日は門下加盟各団体から三五名参加し、種々討議を行い、その後嵐山に席を移し懇親の夕べがもたれた。

正午受付開始、午後一時より本法寺貫首金山寛成現下導師のもと法味言上。法要後記念撮影。引き続き本法寺所蔵宝物拝観。午後二時四十分より開議。報告・承認・決定事項と議事はすすめられた。

報告事項として、(一)上半期事業報告(祖廟参詣・理事会六月十日。比叡山開創二百年慶讃法要五月二十三日。門連だより第四号八月一日。人事関係。遷化。その他)がなされ承認決定事項として、(二)理事長推選の件(昭和六十二年十月十四日の常任理事会にて日蓮宗の渋谷直城師が

*山口智光師の貴重な回顧談は、読む者に深い感銘を与える。門下連合の動きは、今に始まったわけではなく、明治、大正、昭和とつづいて心

ある先師がたの共通の願いであった。過去を知り、その上で未来を語る(こと)を必要なことであろう。(編集部)

昭和62年度京都
昭和63年度身延



日蓮聖人門下連合会 京都理事会 S 62.11.25 於・本法寺



日蓮聖人門下連合会祖廟参詣・理事会 S 63.6.10

祖廟参詣・身延理事会

昭和六十三年恒例の祖廟参詣・身延理事会は六月十日行なわれた。午前十二時五十分常唱殿より唱題行列にて御草庵跡へ参進。法味言上。のち祖廟において渋谷理事長導師にて法味言上、並びに各派代表焼香、その後大本堂にて法味言上、宝物館参観、祖師堂にて法味言上。水

尚、問題点として全門連と地方門連の間に上下関係のイメージがあること。福井では宗派により寺院数の差があり、それにより門下連合への動きが遅れていることなど提起された。

5、門連だより刊行に関する件
右については大橋常任理事より第五号遅延につき説明があり、今後新たに富川幹事を日蓮宗の編集委員として活動再開の旨報告がなされた。

以上

田中智学先生第50回忌報恩記念事業

田中智学の世界展

●明治、大正、昭和の三代にわたって、近代仏教の先覚者として活躍し、各界に大きな影響を与えた田中智学先生の多彩な軌跡をたどります。五十回忌のこの年、その生涯を回顧し、歴史の大きな変動期を迎えた今日、改めて田中智学先生に迫りその意味を探ります。

会期 9月2日(金)～7日(水)
午前10時～午後6時30分
会場 東急百貨店 日本橋店
7F グランドホール

田中智学の世界展記念講演と狂言の会

日時 9月3日(土)午後4時開演
会場 ヤマハホール(東京・銀座)
講演 「近代日本と田中智学」
講師 評論家村松剛先生
狂言 田中智学先生作「今様宗論」
出演 大蔵流山本東次郎師ほか一門
— いずれも入場無料 —

主催 産経新聞社 田中智学の世界展実行委員会
後援 フジテレビ ニッポン放送 サンケイスポーツ
夕刊フジ 日蓮聖人門下連合会
ぜひご来場ください。案内箋ご希望の方は
●国柱会本部 〒132 東京都江戸川区一之江6-19-18
☎ 03(656)7111まで一報下さい。

記念出版

●報恩記念事業として『田中智学先生の思い出』田中智学先生の碑『田中智学の少年時代』『天下は愚にたぶ(田中智学語録)』等を逐次刊行、『日蓮主義研究』13号(発売中)、同14号、月刊『真世界』9月号は、特集号として発刊します。

発行・発売 真世界社 東京都江戸川区一之江6-19-18
☎ 03(656)7111

各派・教団 短信



法華宗本門流

3月29日南海の孤島口永良部島に金剛院日増上人開教五百年を記念し遺徳顕彰碑が建立され、慶讃法要を奉修した。当日は、管長小西日静院下(本興寺貫首)、本能寺赤田日崇貫首、松井宗務総長はじめ多くの僧俗が渡島し、廃仏毀釈以来絶えた島の復興に着手した。

沼津市大本山光長寺では、4月5日、開山同時二祖日春・日法両聖人御正法法要にあわせて、第七十三世の法燈を継承された久保木日秀上人の御晋山奉告の祝典が、参集した多くの僧俗と関係者の祝福のうち、盛大に奉修された。

4月1日付を以て、内局員の一部異動があった。宗務総長が兼任し空席となっていた庶務部長に渡辺修翁師(東金市沼田教会担任)が教化部長より転進、その後任に大橋周光師(山梨県妙法寺住職)が就任した。任期満了により全国十三教区の宗務所長の改選が行われ、4月1日付就任した新たな顔ぶれで5月25、26の両日、東京ガーデンパレスにおいて昭和63年度宗務所長会が開催された。尚、これに先がけ5月17、18日、第37次定期宗会が同会場において開催された。(吹吹慈英)

本門佛立宗

本門佛立宗開導の師、日扇聖人百回御遠諱を明年にひかえて、本年5月の盛岡を皮切りに、別修大法要が全国各地で奉修されている。別修大法要は、各地域ブロックごとにとまわって、それぞれの都市に

あるイベントホールを借り、三千から一万名近い信徒が集って、御講有日裔上人をお迎えして厳やかに営まれるもの。

宗門全体が「開導百遠諱報恩御奉公」に燃え、各部署で次々と報恩御奉公の企画が実行されつつある。

特別局では、日扇聖人の二一代記を映画にまとめようと、製作を新藤兼人氏ひきいる「近代映画協会」に依頼し、新藤氏自ら監督。「風の門」(仮題)と題する撮影が現在すすまれている。

企画室と広報局では「ほんもの」の教えを求め人へ(展転社)「現代のこころ・本門佛立宗」(旺文社)を市販し、内部的には、東京乗泉寺教務部から「泉日恒先生著作集(全10巻)」と第五宗務支庁修学塾教員団から「門祖日蓮聖人・原文対照読み下し・五帖抄」が刊行される。

本年9月をもって現宗務役員任期が満了するのにもない次期宗務総長に宇都宮・常照寺の井上日慶上人が選ばれた。(深沢泉奥)

日蓮宗

昭和62年12月10日、日蓮聖人門下連合会初代理事長・日蓮宗管長金子日威院下御遷化。世寿82歳。本葬儀は3月4日、日蓮宗宗務院、立正大学、池上本門寺三者合同により池上本門寺に於て厳修。宗内外僧俗、門下連合会各派、仏教界等多数の方が遺徳を偲び参列された。

奈良市油阪町連長寺が宗祖御遊学の霊地として5月11日付宗門史跡に指定された。同寺の指定は霊跡由緒寺院審議会の答申にもとずき宗門が行ったもの。

6月3日、新潟県柏崎市妙行寺所属番神堂が、宗祖着岸の霊地として宗門史跡に指定された。同地は光日房御書にも記されており、文永11年3月、佐渡配流を赦された日蓮聖人が、寺泊へ向かう途中流されて着岸された霊地。

6月16、17両日、福岡市日蓮聖人銅像護持教会場に、全国布教師連合会代表者会議開催。田中伝道部長が「63年度布教方針」について解説、お題目総弘通運動の取り組み等につき討議を行った。

の故事にのっとり岩間法主親下より渋谷宗務総長に委嘱、宗門要路50名余りが参列した。

日蓮宗、日米青少年交流アメリカ研修旅行(7月21日〜8月11日・22日間)に青年男女15名が出発した。

一行はポートランド・リスアランドクラーク大学で語学およびスポーツ研修を一周間、観光をまじえてサンノゼ妙覚寺別院へ、ヨセミテ、オークランドを経てシアトル北米開教区教団大会に出席の後、ホルルル、ハワイ別院、妙法寺参拝の後帰国した。

第41回日蓮宗研究発表大会が来る10月21、22日、熊本県本妙寺を会場に開催される。本年は一妙院日導上人第百回忌に相当するため、上人ゆかりの本妙寺が会場となった。

国柱会

田中智学先生第50回忌報恩記念事業推進中。9月2、7日、東急デパート日本橋店で開催の「田中智学の世界展」(産経新聞社主催)実行委員会が度々もたれ、諸準備進行中。

毎月第一日曜日の明治神宮参拝は2月より参拝後、代々木の杜の集いとしてあたらしく発足。

2月27、28日、第24回身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団。

3月から田中智学先生五十回忌記念特別講習会が各地方連合会で開催。3月20日、妙宗大靈廟創建六十周年記念大会。4月10日同記念申孝園桜まつり。

4月28、29の二日間第58回身延登詣団。28日大祖廟前で立正会慶讃式典、久遠寺参観。29日思想閣登詣。山頂で天長節奉祝式典。天皇陛下算八十八を寿ぎ記念植樹。

6月20日、日韓仏教交流協議会総会にて田中香浦会長「信仰と祈禱」のテーマで公演。(秋葉善弥)

海外布教所完成。頭本法華宗が、数年来準備を進めてきた南米ブラジルの布教所建設は、現地信徒の熱意と信仰により見事完成した。去る7月24日、宗門より古瀬日字管長親下を団長として、吉永正晴宗務総長をはじめ宗門要職の諸聖、特に開堂法要に花を添えるべく頭青会雅楽僧の代表者、並びに一般参加の篤信者を含めた一行20余名、および現地信徒多数参列のもとサンパウロ郊外に新築なったブラジル頭本教会開堂落慶法要が盛大に奉修された。

本宗では、以前ハワイや韓国等に教会が開設され、熱烈な布教伝道が展開されていた。戦後の混乱により各教会は閉鎖され、その再開が切望されていた。今回開堂となったブラジル頭本教会建設に至る背景には、現地信徒の中心として陣頭指揮にあたったブラジル布教所会長永田義功僧正をはじめ多数信徒の頭本法華宗の正義を護持し新道場建設をというたゆまぬ努力があった。折しも昭和66年、御開山日什大正師第六百遠忌に向け、御報恩事業として多くの課題を克服、華宗一致で予算化もはかられ、現地信徒の熱烈な努力と相和して完成の喜びの時を迎えた。

今後、このブラジル頭本教会が海外布教の拠点となり、大きな成果をあげることであろう。(朝倉俊幸)

日蓮本宗

本山要法寺の本堂大屋根修復工事は、62年6月に着工以来順調に進み、63年7月現在、瓦工事も終了して最終段階に入り、予定どおり15カ月の全工程を終えて8月に完工する。

同本山では、本堂屋根修復に続き開山日尊上人をまつる「開山堂」の屋根修復も実施することとなり、本年9月3日に起工式を奉修する予定。

同本山の第四十祖日貫上人の第百遠忌を記念して「明治維新の教傑・日貫上人」が出版された。日貫上人は明治維新の激動期、「神道国教政策」の中で仏教界が大混乱に陥ったとき、教団の新时代への覚醒と新体制づくりに当られ、要法寺のみならず「日蓮宗門派」初代管長として日蓮聖人門下の近代史に大きな足跡を残された。本書は、同本山元貫首(第四十九祖)原日認上人の執筆である。(柳下義真)

法華宗真門流

総本山本山本隆寺開創五〇〇年慶讃大法令を4月8日から3日間盛大に厳修円成した。全国門末檀信徒、およそ五〇〇〇名があい集い、報恩と新たな弘法の決意、そして、感激の唱題という一大絵巻であった。ことに、本隆寺と仏縁の深い後柏原天皇、明正天皇・明治天皇「三天皇」の追福法

要奉修に際し、宮内庁へ「内申書」を提出し、宮内庁では、徳川侍従長より、天皇陛下に奏上。恭くも天皇陛下より格別の思召を以て、御供御菓子」を下賜された。これらすべてが、宗門史に燦然と輝いた。開創五百年を節目に、天皇陛下の御恩徳と、高祖大聖人・御開祖の御慈悲に沿い奉るべく、僧俗一体となり、宗門の発展と仏国土顕現に決意を新たにしている。

去る4月23日より5日間、福井県鯖江市、本山平等会寺を会場に布教師養成所が開かれた。一期三年間におたつて、言説布教全般を研修するもので、五分間法話、高座説教の指導、法華経講話と日常の話題との関連などを研鑽した。ことに今年是最終年度のため、およそ50名の聴聞参詣者を前に布教実践を行なった。

宗門青年僧による親睦ソフトボール大会が5月20日、姫路城南球場で行なわれた。今年で12回を重ね福井方面から福真会・京都大阪方面から興隆会・地元兵庫方面からは妙雲会の3チーム総勢40名参加。リーグ戦の結果、興隆会が6度目の栄冠を手におさめた。(吉田勝秀)

法華宗陣門流

総本山本成寺千部大法要。盛況の5日間。5月21、25日総本山本成寺では開山以来、約5年ごとに一回絶えることなく千部大法要を厳修している。日程は21日陣師講、御歴代法要、22日永代祠堂、納骨特別法要、奥書院落成法要、交通安全祈願、24日米寿表彰、納経法要、25日夜光殿特別法要、授戒、各日とも全国門末寺院よりの団参が本山に訪れ、盛況の5日間であった。また記念事業として、御仏間、御宝蔵、書院等建設された。

三宗統合学院学生講座開催。6月18、20日の3日間、法華宗陣門流宗務院内陣門講堂を会場に、三宗統合学院学生講座が開催された。統合学院は、毎年前後期2回開講され、三宗の青年僧を対象にした教学講習育成の場である。頭本法華宗、教学研究所長窪田哲城上人が講義をされた。(江坂隆俊)

本門法華宗

大本山妙蓮寺で去る62年10月12日、貫首晋山式が厳修され、中村日宣上人

が大本山妙蓮寺第九十七世の法燈を継承された。中村日宣新貫首は奈良県大和郡山本門寺の住職に在り、宗門において宗務総長を三期務められ、現在本門法華宗学院の学院長。当日は好天に恵まれ宗内外の各上人をはじめ、立正大学同期の宮崎英修先生ほか多数の来賓、信徒が参列し盛大に晋山の儀が執り行なわれた。

大本山妙蓮寺執事長に11月1日付をもって松下日肆上人(塔頭堅樹院)が任命された。

本門法華宗学院では11月25、27日の3日間宗内教師を対象とする研修会が東京浄風寺(宮内日穩住職)において開催された。今回は特別講師として宗外から、身延山短大宮崎英修、立正大学北川肇両先生を迎え講義を賜り有意義な研修会であった。(持地光学)

日本山妙法寺

88原水爆禁止・原平和会(8/31/8/6) 88長崎平和祈念行脚(8/8/8/9) 各地において平和行進を実施中。

京都門連

御降誕会。2月16日法要。導師総本山本隆寺貫主林日圓院下、法話、京都門連理事林錬昭上人「日蓮聖人よりいただいた私のお題目をあなたに」

7月6日、主伴会開催(京都十六本山貫首、執事長交歓会。昭和66年の像師御遠忌に像門流本山を中心に記念になる催しの企画につき話し合われた。

夏期大学。8月29日本能寺会館において、講師総本山本隆寺貫主林日圓院下「法華経と日蓮聖人に学ぶ」立正大学教授勝呂信静先生、法華経の基本的思想。関西大学教授網干善教先生「祇園精舎の発掘跡の調査―その意義と成果―」

連合御会式。10月5日唱題行進の後、当番本山にて報恩法要奉修予定。(上田浩岳)

●目的 本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

- 事業 1、祖廟護持の組織強化 2、教育事業の提携 3、布教の連合強化 4、懇談会・研究会・講演会等の開催 5、各種出版物の刊行 6、海外布教の提携及び交流 7、対外的な各種の運動 8、その他

加盟団体

- 日蓮宗 法華宗本門流 頭本法華宗 法華宗陣門流 本門佛立宗 日蓮本宗 法華宗真門流 本門法華宗 国柱会 日本山妙法寺 京都門下連合会

るつうぶん



●暑中御見舞い申し上げます。 ●第一面は大板地区の門下連合運動の報告。 ●いざれ結成大会の模様も詳報できるところ。 ●門連常任理事各師より本紙への熱い期待を記していただいた。 ●各師遠つた切り込み、共通の期待は重く肩にのしかかる。 ●「門連の進路」は山口智光師が登場ねがった。師は現在体調をくずしておられるが、門下統合に寄せる思いは後学の徒の大きな力である。 ●短信は報道量が多く、一部割愛せざるを得なかった。各門流の宗紋章もまとめていづれご紹介したい。 ●暑中見舞い広告、一般広告にご協力いただいた関係各位に厚く御礼を申し上げます。

●暑中御見舞い申し上げます。 ●第一面は大板地区の門下連合運動の報告。 ●いざれ結成大会の模様も詳報できるところ。 ●門連常任理事各師より本紙への熱い期待を記していただいた。 ●各師遠つた切り込み、共通の期待は重く肩にのしかかる。 ●「門連の進路」は山口智光師が登場ねがった。師は現在体調をくずしておられるが、門下統合に寄せる思いは後学の徒の大きな力である。 ●短信は報道量が多く、一部割愛せざるを得なかった。各門流の宗紋章もまとめていづれご紹介したい。 ●暑中見舞い広告、一般広告にご協力いただいた関係各位に厚く御礼を申し上げます。